

# 戦後70年、日本が世界に誇れること

第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦後70年、見事に立ち直り世界のトップグループを走っています。

## 1、戦前は軍事中心の国家運営が敗戦を導き、世界初の原爆被爆国という国難も背負った。

これら戦前に対する強烈な反省のもとに新憲法は制定されました。

新憲法は反軍事の精神が柱になっており、戦後70年、日本・日本人は平和と民主主義を守ってきました。

反軍事の精神のもと、国家組織・国土の復興・企業活動ベースの再構築・国民生活の向上が図られました。国民生活のインフラが整備され暮らしやすい長寿国、美食の国、安心・安全・清潔な社会となり海外から高信頼市民社会と評価されるようになってきました。日本人は損得よりも信頼を優先する人が多く、隣国のように歴史を捏造することもないのです。

戦後70年間、この平和と民主主義を守ってきた**反軍事の精神**こそが日本が世界に誇るべきソフトパワーなのです。

地球の歴史は戦争の歴史です。世界は今、軍事力を背景にあちこちで紛争が勃発しています。世界史に学んでいません。軍事的な争い、戦争には勝者・敗者とも甚大な問題が発生します。米国、ロシアはいずれも軍事力を前面に押し出した国家の代表です。軍事力とは国家による暴力の極みで、いかなる戦争も犯罪行為であり、むなしい戦争は国際法上禁止する…位の認識を持つべきでしょう。そろそろ、世界史に学び地球の戦争の歴史に終止符をうとうでありませんか？

経済力をつけてきた中国は最近、強化した軍事力を背景に国際法を無視した自分勝手なことをあちこちではじめています。

日本は戦後70年間、反軍事の精神で復興を遂げました。地球上の争いを軍事によらず、世界平和裁判所で裁判によって平和裏に問題を解決していく、その旗振りの役が日本には求められているのではないのでしょうか？

## 2、国力の大半を経済活動に集中、驚異的な高度経済成長を遂げた。

国家活動のベースになる、空港・港湾・高速道路・一般道路・高速鉄道・一般鉄道・バス・電気・ガス・上下水道・公団住宅建設などが計画的に整備された。

国家・企業・国民が一体となって国家の復興に邁進し、戦後23年目の1968年にはGDP世界2位の経済大国に躍進した(→2011年 3位)。戦後30年の1975年、第一回サミット(主要国首脳会議・フランス・ランブイエ)に参加。資源小国、焦土と化した日本の短期間での復活に世界中の人々が驚きました。

(1) 自動車・電機・精密部品などの優れた先端技術商品を国内にプラスし海外市場に提供。グローバルな製販体制を確立した。メイドインジャパンのラグジュアリー商品は世界中の人々の生活を豊かにしている。

(2) 国・企業の労使協調が企業利益に大きく貢献した。

(3) 日本の持つインフラ・環境などの高度な技術は今後、発展途上国に提供されていくでしょう。

## 3、国家・企業の復興と同時に国民生活が向上した。富が公平に分配され、社会保障が整備された。

1958年～1977年までの約20年間、年率平均の賃金は10%以上、上昇し富が公平に分配された。

1958年～1961年の岩戸景気では年率平均で16、7%、1962年～1964年のオリンピック景気では17、1%、1965年～1970年のいざなぎ景気では年率平均で17、5%、1972年～1973年の列島改造ブームではなんと年率平均賃金の伸びは25、1%を記録しています。1975～1977年は13、2%の伸びでした。1958年前後、神武景気、岩戸景気、東京五輪を挟んでいざなぎ景気まで景気は継続しました。また患者が好きに医者を選べる国民皆健康保険は世界に誇れるものです。

## 4、途上国援助ODAを積極的に推進してきた。

日本は、1954年のコロンボ・プラン加盟以来、自らの経済発展の経験を生かしながら、途上国援助を行ってきました。

その間、経済的実力の向上とともに援助量を拡大させていき、1991年から2000年までの10年間は、援助額で世界第1位にありました。日本がこれまでODAを供与したところのある国・地域は計185カ国・地域に及び、援助総額は2210億ドルに上ります(ともに2003年までの累計)。また、援助を受け取る側から見たときに、日本がその国にとって最大の援助国になっている国が多数あります(2002年時点で40カ国)。たとえば近年では、2003年12月に東京で開催された日本・ASEAN特別首脳会議で、ASEANの経済発展に対して日本が果たした役割について、各国の首脳から高い評価が与えられました。2003年9～10月に同じく東京で開催された第3回アフリカ開発会議(TICADIII)に参加した多くのアフリカ諸国の首脳も、あらゆる機会をとらえ、日本への信頼感や感謝の意を表明しました。そのほか、1998年来日した中国の江沢民国家主席(当時)が、日中共同宣言のなかで、日本がこれまで中国に対して行ってきた経済協力について感謝の意を表明したことなど、こうした例は枚挙にいとまがありません。このような評価は、政府関係者だけでなく、途上国の一般国民の間でも共有されています。

## 5、世界の政治・経済に貢献

戦後30年の1975年、第一回サミット(G5主要国首脳会議・フランス・ランブイエ)に参加。資源小国、焦土と化した日本の短期間での復活に世界中の人々が驚きました。1986～G7、1997～G8

2013年、国連分担金は世界2位、世界銀行拠出金2位、資金調達額全体の三分の一以上を支える。